

愛と言う言葉は抽象的であり、漠然ばくぜんとしています。一人歩きをするより二人で歩いたほうが内容を理解しやすいのです。例えば、恋愛と言えば、愛情の高ぶりと愛慕あいぼの状態が目には浮かびますし、欲望に執着すれば渴愛かつあい、反対に離れれば割愛かつあい、肉欲的には愛欲・愛撫あいぶがあり、と面白いものです。可愛く言えば愛嬌あいきょうがあるとか、愛くるしいとか、国情を思えば愛国、妻を思えば愛妻、みんな仲良く人類愛、捨てるに迷いが生じて愛着あいぢやく、などとても分かりやすくなります。道徳的には優しい顔で言葉をかけて・和顔愛語わげんあいご。佛の慈しみを受け・慈愛じあい。恩を受ければ・恩愛。等があります。受けた恩を返して謝恩しゃおん、「心配り心得しんくわいでしょうか。

人生が面白くて楽しい人、辛く苦しいと思う人、思いは人それぞれ感じ方もそれぞれです。同じように信仰もそれぞれです。手が合わさるか否かは別にして、生きていることに、感謝できずに、不満を抱かざるを得ない人。色々です。⊖の⊕りない処を補えば ⊖満」を転じて 満⊕」にすることができるよう。足りないところが分かるまで悩みは続き不満を解消かいしょうすることが出来ない訳です。我々は少なくとも前三代のご先祖がしてきた行動のすべてを凝縮けいしゆくした血でもって生を受け継いでくるらしい。と言って、兄弟姉妹を比較してもそれぞれに個性があるものです。自分がどの部分を強く受け継いで来たのか お前は祖父」に似ているとか、曾祖父」に似ていると言う話を聞いた方もおありだと思えます。血は水よりも濃いと言われる所以ゆえんでしょう。次世代の為に己が勤めつとをしつかり果たはしましょう。

お経の中に 信と行」についてたくさんでてきますが 一つ挙げますと「信を種子と仮定すれば、行は雨であり、智慧は耕す道具であると言葉は簡単ですが、人は知に迷い、情に迷うものでありますし、又、我々の目は勿論の事、音・色・声・香・味・触・に惑わされる事、日常茶飯事です。なかなか信の確立には難しい状況下に生活をしています。心が肉体の原動力になっっていることは一応理解できると思えます。信心が無い人でも脳の働きも心の指令に従い善心か悪心かの判断・決定をする事には異論がないと思えます。ただ突発的に反射運動をしてしまう時には意識して、と言うよりも潜在する反応であろうと思えます。仏教は心身の快樂けらく、快樂不退を追及していると思っています。娑婆は釈尊存命の時と変わらず病に蝕むしばわれた人間で溢あふれています。病より解放された方々は健康であれば最高の幸せだと言います。当山の檀家の方も回復の速さに、お医者様に何か信仰をお持ちですかと聞かれましたと話されたことが御座います。より良い生活をする為には智慧が必要です。智慧は行おこないによって深まり、身に付いて離れません。しかし悪智慧もあります。身についてしまったら大変です。道元禪師は 髓をうるること、法をつたうること、必定して至誠しじょうにより、信心によるなり」と信心の波及が人体に影響を与えるものと思われれます。信心なくして智慧もなしです。